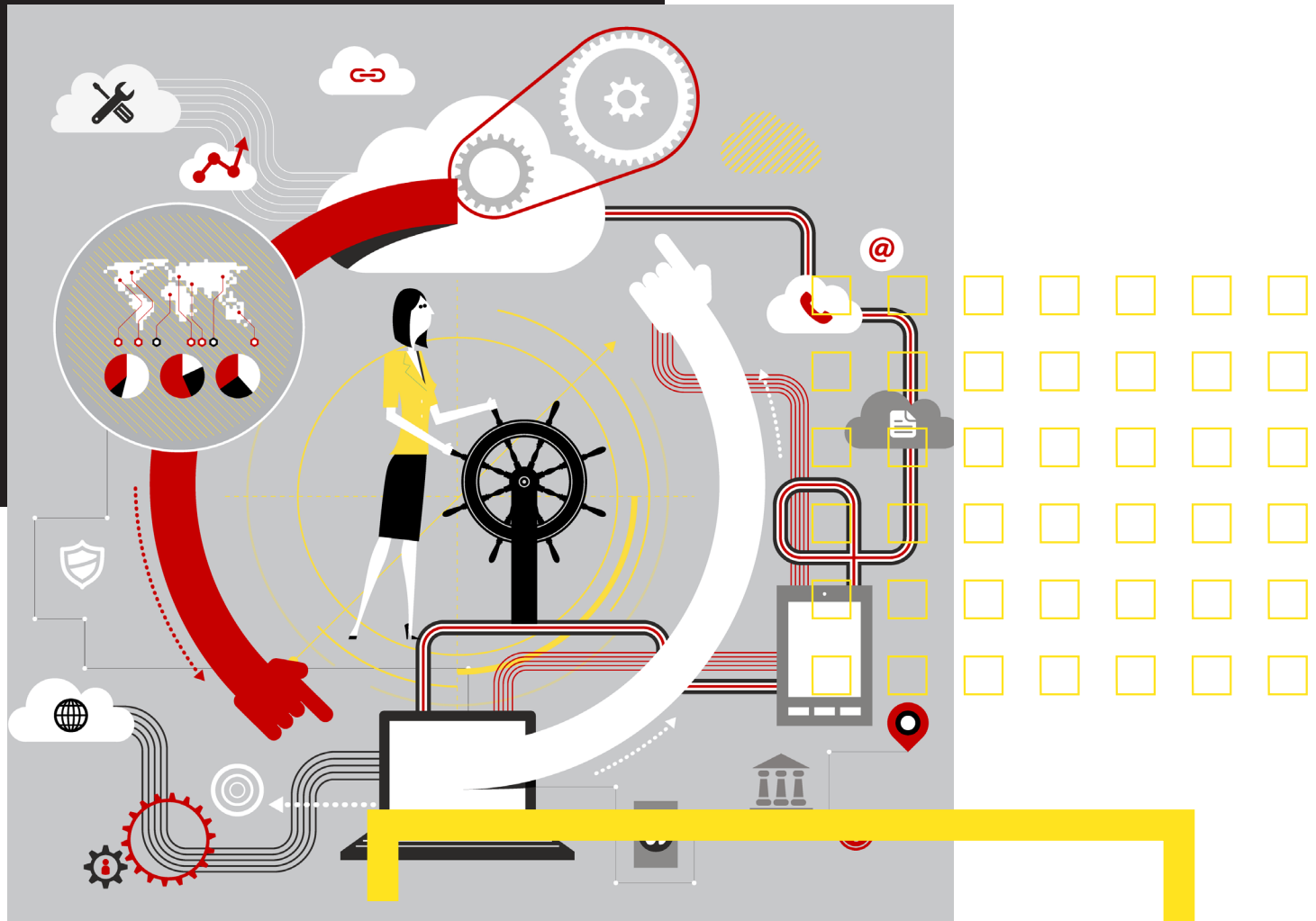




調査レポート: 今後のOracle EBSロードマップに関するライセンシーの見解

調査結果によると、現在のEBSリリースはビジネスニーズを満たしており、ライセンシーは、価値を最大限に高めて耐用期間を延ばすための戦略を実施しはじめています

目次

概要	3
背景	4
調査の目的と 方法	5
主なインサイト	7
今後のOracle EBSロードマップに向けた5つの提案	17
参考資料	18

概要

全体として、本調査に回答した、Oracle EBSライセンスを持つIT組織の97%が、現在のERPリリースはビジネスニーズを満たしていると報告しています。

現在導入されているOracle ERPはビジネスニーズを満たしていますか（すべてのEBSユーザー）？

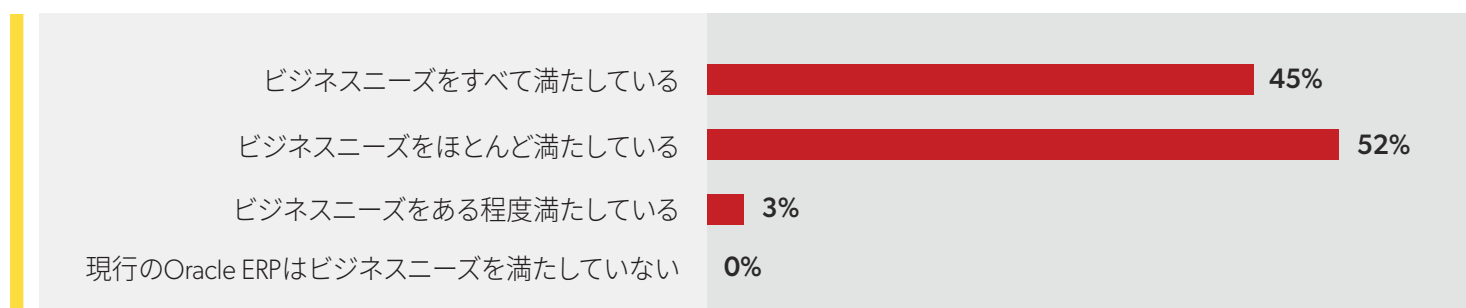


図1

ライセンシーは、現行のOracle EBSリリースの堅牢性を考慮し、基幹ビジネスプロセスの基盤として、今後長年にわたってこれらのリリースを最適化するための措置を講じています。実際、回答したOracle EBSライセンシーの75%以上が、Oracleのフルサポートが終了した、または間もなく終了予定のリリースを利用しています。回答者の利用しているOracle EBSアプリケーションのバージョンで最も多かったのが、12.2（35%）、次いで12.1（30%）です。現在、Oracle EBSの12.0以前のすべてのリリースではOracleのフルサポートが終了しており、新しい修正プログラム、重要なパッチ更新、セキュリティアラート、税・法規制の更新を受けられなくなっています。さらに、EBS 12.1は、2021年12月までにフルサポートが終了する予定です。²

現在、Oracle E-Business Suite（財務、製造など）アプリケーションのどのバージョンを貴社で利用していますか？

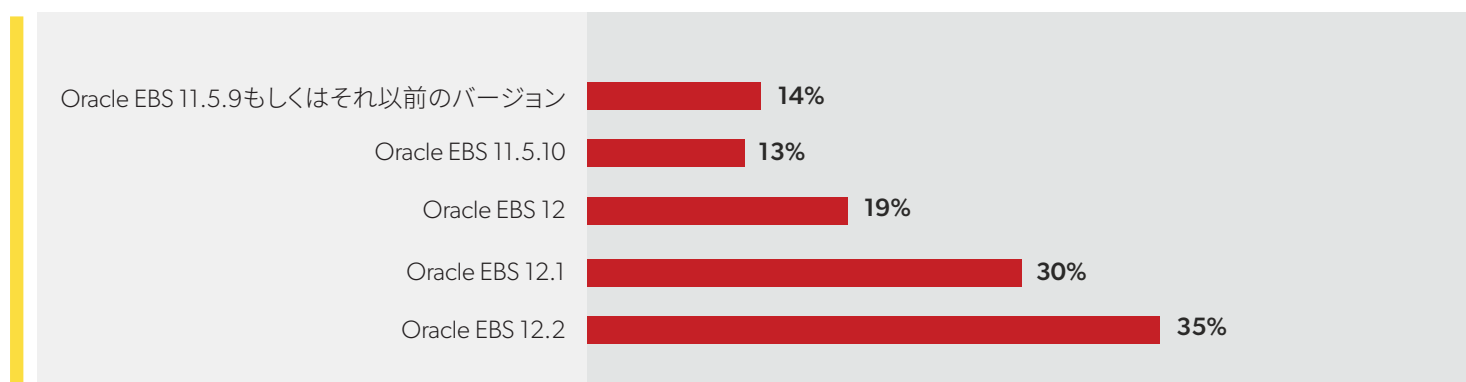


図2

Oracle EBSライセンシーは、現在のリリースの価値を最大限に高め、耐用期間を延ばすための戦略を実施しています。

多くのOracle EBSライセンシーは、高額でROIの低いリリースアップグレードやOracle Cloud ERPへの完全移行に多大な時間、人材、資本を投入する代わりに、堅牢かつ成熟した現行リリースの価値を最大化し、耐用期間を延ばすための措置を講じるようになっています。例えば、EBSソフトウェアをクラウドホスティングプラットフォームに移行したり、アプリケーションマネジメントサービスを活用したり、年間サポートをリミニストリートなどの第三者保守サポートプロバイダーに切り替えたりしています。

Gartner社による2020年の予測に関する調査報告書でも、次の所見が述べられています。

「レガシーソフトウェアのサポートコストが年々増加する一方で、そのサポートから得られるメリットは減少しているため、ますます多くの企業が、低コストの第三者保守サポートの選択肢を検討するようになっている。...多くのバイヤーは、カスタマイズされたコードのサポート、相互運用性サポート、グローバルな税・規制・セキュリティサービスなど、第三者保守サポートプロバイダーが提供する付加価値の高いサービスを認識するようになっている。」³

背景

今日、多くの企業では、Oracle E-Business Suite (EBS) アプリケーションの日常運用コストにかなりのIT予算を費やしており、予算の90%を占めています。¹ フルサポートを維持するためだけに、ソフトウェアベンダー主導のロードマップに従ってアップグレードとソフトウェア更新を続けても、競争優位性が向上することはほとんどありません。

その結果、Oracle E-Business Suiteを利用する多くの企業が、自ら主導権を持ち、(ベンダーのタイムラインではなく) ビジネスニーズに基づくITロードマップを策定する新しいアプローチを進めています。これには、実証済みの革新的アプローチによってERPサポートや日常業務を最適化し強化することや、ビジネスに対する新たな価値を最大限にもたらすクラウドモデルを選択することが含まれます。

Oracle E-Business Suiteの顧客が直面している彼らの戦略の方向性に影響をもたらす課題は、使用しているリリースによって少し異なります。

- リリース12.0かそれ以前を利用している場合、Oracleのフルサポートが終了しているため、新しい修正プログラム、重要なパッチ更新、税・法規制の更新を受けられません。¹同様に、リリース12.1を利用している場合、2021年12月までにフルサポートが終了します。^{1,2} そのため、アップグレードするか、それともソフトウェアベンダーのサポートとサービスのモデルに代わる優れた選択肢を探るかという選択を迫られています。
- リリース12.2を利用している場合、Oracleロードマップ上に新しいメジャーリリースの予定はなく、フルサポートを維持するためだけに更新を継続的に適用することを余儀なくされます。更新プログラムによって得られる価値はあまりなく、戦略的な取り組みに充てる時間も奪われています。いつまでこのロードマップ上にとどまるべきか、クラウドの他の選択肢を考慮すべきか、あるいは他のベンダーを検討すべきかという決定を迫られています。

最近リミニストリートは、IDGの協力を得て、世界中のOracle E-Business Suiteライセンシーを対象に調査を実施しました。現在利用しているEBSのメジャーリリースに関連して直面している主な課題と、実施している戦略、またEBSプラットフォームに関する今後の計画について、データとインサイトを収集するためです。

調査の目的

リミニストリートの実施した調査は、特に以下の問題についてデータを収集する目的で行われました。

- Oracle EBSソフトウェアの導入、ベンダーのサポート、EBSプラットフォームの今後の計画に関する、現在の顧客満足度
- Oracleのフルサポートが終了した(12.1より前のバージョンを利用している)顧客の場合: Oracle EBSアプリケーションに必要なサポートを受けるためにどんなアプローチを採用するか、12.2へのアップグレードやアプリケーションマネジメントサービス(AMS)の活用の可能性についてどんな計画や考えを持っているか
- 2021年12月にOracleのフルサポートが終了する(バージョン12.1を利用している)顧客の場合: Oracle EBSアプリケーションに必要なサポートを受けるためにどのようなアプローチを採用するか、12.2へのアップグレードやアプリケーションマネジメントサービス(AMS)の活用の可能性についてどんな計画や考えを持っているか
- 最新リリース(12.2)を利用している顧客の場合: Oracleの継続的な更新による実際の使用状況と価値はどんなレベルか、Oracleのロードマップに付いていくためにどんな人材やアプローチを採用しているか
- Oracle EBSの顧客は、特にサービスとしてのインフラ(IaaS)やサービスとしてのソフトウェア(SaaS)など、クラウドコンピューティングに関して、現在そして将来的にどんな計画を立てているか

方法

調査は、Oracle E-Business Suiteを利用する、18種の業界のプロフェッショナル200人を対象に行いました。CIO、IT担当責任者、IT担当ディレクター、IT担当マネージャー、そしてOracleアプリケーションの主任、マネージャー、管理者など、様々な役職が含まれています。

回答者は、米国から100人、英国から50人、香港、シンガポール、マレーシア、オーストラリアから50人が選ばれました。この調査は、2020年3月17日から2020年3月27日まで、米国、英国、香港、シンガポール、マレーシア、オーストラリアで実施されました。

調査回答者の役職

Oracleアプリケーション管理者	11%
Oracleアプリケーションマネージャー	17%
Oracleアプリケーション主任	4%
IT担当ディレクター/マネージャー	48%
IT担当責任者	6%
CIO	14%

図3

調査回答者の業界

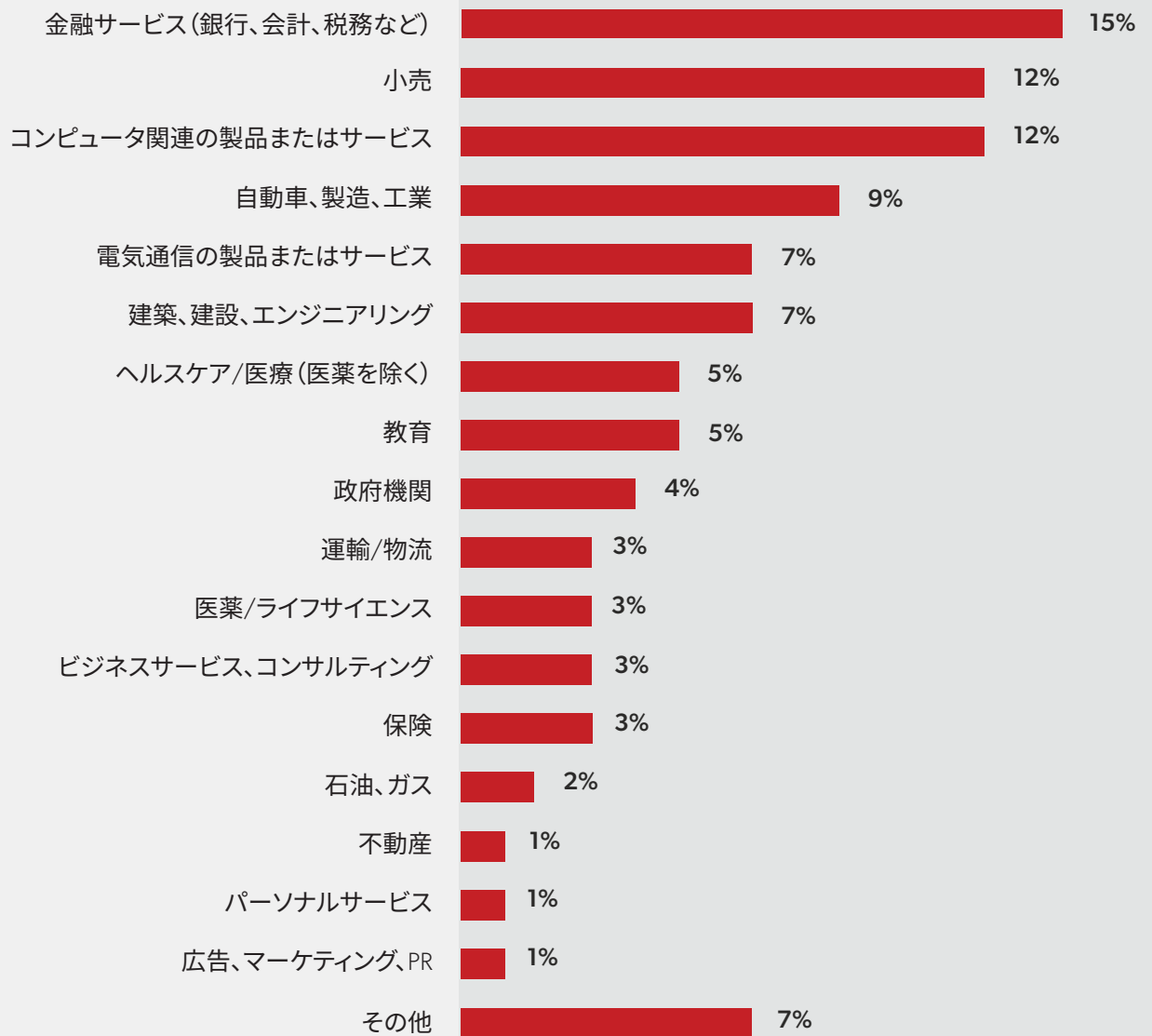


図4

主要なインサイト

リミニストリーットの調査結果により、以下の5つの主要なインサイトが明らかになりました。それぞれについては、調査分析でさらに詳しく説明します。

インサイト 01

大多数 (**97%**) が、現在のOracle EBSリリースはビジネスニーズを満たしていると回答した一方で、Oracle EBSライセンスを持つIT企業は継続的なベンダーサポートのコスト (**55%**) や品質 (**45%**) について不満を抱えています。

インサイト 02

フルサポートが終了しているリリース (12.1以前) を利用している回答者のうち、明確にアップグレード予定があるのは、わずか**40%**であり、そのうち**85%**は保守のためにアップグレードしようとしています。**68%**は、EBS ERPアプリケーションの一部またはすべてにAMSを使用しています。

インサイト 03

リリース12.1を利用している回答者のうち、明確にアップグレード予定があるのはわずか**38%**であり、そのうち**73%**は保守のためにアップグレードしようとしています。アップグレードを計画していない回答者のうち**36%**は、Oracle 12.1 EBS環境のサポートについて明確な予定がなく、**18%**は第三者保守サポートに移行する予定です。**73%**は、一部またはすべてのEBS ERPアプリケーションにAMSを使用しています。

インサイト 04

Oracle E-Business Suite 12.2を利用する回答者の大部分は、主に保守とセキュリティ上の理由から、更新を最新の状態に維持しています。しかし、強力な新しいイノベーションが継続的に得られていると感じているのは、半数未満です (**47%**)。

インサイト 05

87%のライセンシーが、Oracle EBSソフトウェアに、クラウドホスティングプラットフォームをすでに利用しているか、移行中もしくは評価中です。また、何らかのSaaSを選択している回答者の**66%**は、Oracle以外の最善のソリューションを利用しています。

大多数 **(97%)** が、現在のOracle EBSリリースはビジネスニーズを満たしていると回答した一方で、Oracle EBSライセンスを持つIT企業は継続的なベンダーサポートのコスト **(55%)** や品質 **(45%)** について不満を抱いています。

回答したOracle EBSライセンシーの大半は、高い年間料金、対応とエスカレーションに関する課題、カスタマイズされたコードのサポートの非対応など、いくつかの分野でOracleのサポートに不満を抱いています。回答したEBSライセンシーの大半は、利用しているリリースに関係なく、いくつかの分野でベンダーサポートのコストと品質に不満を抱いています。主な不満としては、高額な年間保守料金、ベンダーの問題対応に時間がかかること、サービスリクエストに対応する適切な専門知識を得るために優先チケットを何度もエスカレーションする必要があることが挙げられています。

さらに、ベンダーがカスタマイズされたコードのサポートに対応していないことも、EBSライセンシーにとって課題となっています。

Oracleの保守とサポートに関する最大の課題は何ですか？

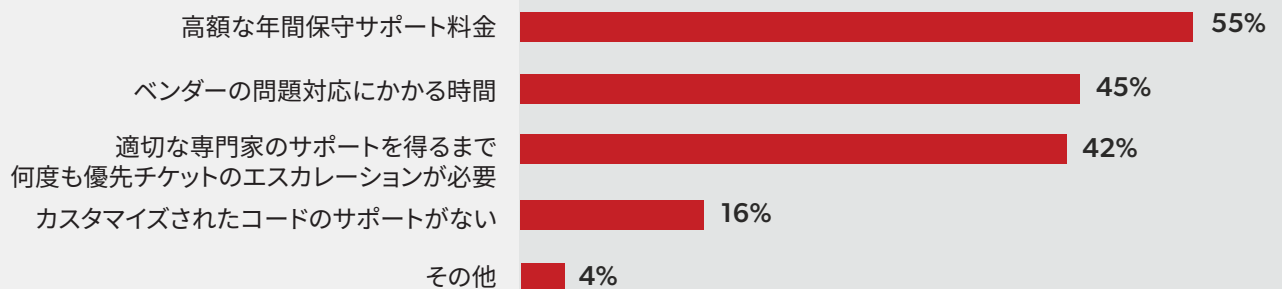


図5

フルサポートが終了しているリリース（12.1以前）を利用している回答者のうち、明確にアップグレード予定があるのは、わずか**40%**であり、そのうち**85%**は保守のためにアップグレードしようとしています。**68%**は、EBS ERPアプリケーションの一部またはすべてにAMSを使用しています。

Oracle EBSリリース12.0もしくはそれ以前をまだ利用している回答者のうち、明確に最新リリースへのアップグレード予定があるのは半数未満（40%）です。

貴社ではOracle EBS 12.2への移行を計画していますか？

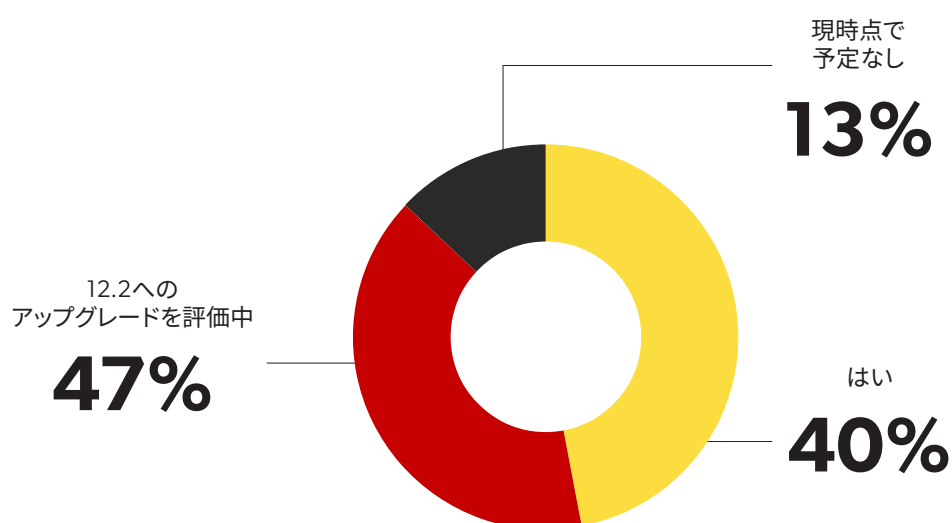


図6

明確な計画を持つ回答者のうち85%がアップグレードする主な理由は、機能やセキュリティ関連の修正プログラム、税・法規制に関する更新など、保守とサポートに関連したものでした。12.2にアップグレードする理由として新機能や機能拡張を挙げたのは、リリースから数年経過しているにもかかわらず、わずか15%でした。

Oracle EBS 12.2にアップグレードする主な理由は何ですか？

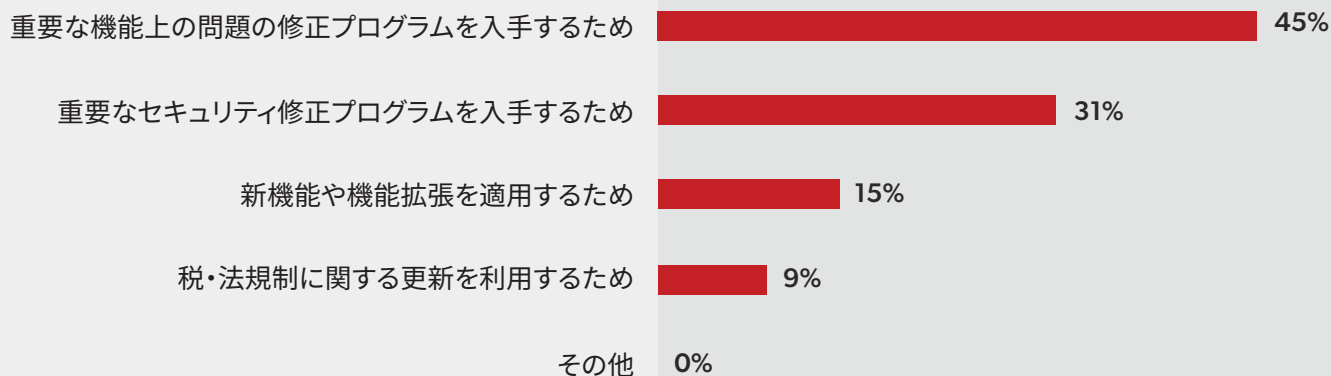


図7

現在、Oracle EBSの顧客の多く（68%）が、継続的な日常業務を処理するため、Oracle EBS ERPの全部または一部をアプリケーションマネジメントサービスプロバイダーにアウトソーシングしています。

AMSベンダーの顧客満足度が低下

Gartner社によると、「上位の」AMS企業に対する評価は5.00中3.03であり、AMSベンダーの顧客満足度は低下傾向にあります。⁴ ITチームは、現在のAMSサービスから本当に価値が得られているのか疑問に感じ始めているのかもしれません。

現在、EBS ERP環境の一部を、Tier 2のアプリケーションマネジメントサービス（AMS）プロバイダーにアウトソーシングしていますか？

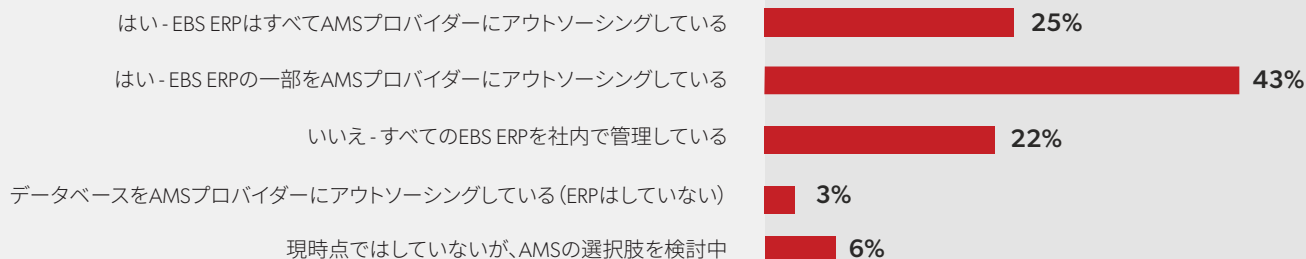


図8

Oracleは新しいEBSの機能拡張への投資に消極的

"Oracleがレガシー製品への投資に力を入れていなかったのは明白です。Oracleは明らかに、クラウドのビジネスモデルへの投資を重視し、私たちのEBSシステムへの機能向上はほとんどなされていません。"⁵

— Atkins社、
コーポレートシステムディレクター

リリース12.1を利用している回答者のうち、明確にアップグレード予定があるのはわずか**38%**であり、そのうち**73%**は保守のためにアップグレードしようとしています。アップグレードを計画していない回答者のうち**36%**は、Oracle 12.1 EBS環境のサポートについて明確な予定がなく、**18%**は第三者保守サポートに移行する予定です。**73%**は、一部またはすべてのEBS ERPアプリケーションにAMSを使用しています。

Oracle E-Business Suiteリリース12.1は、2021年12月までにフルサポートが終了し、Sustaining Supportになります。顧客はベンダーから新しい修正プログラム、重要なパッチ更新、セキュリティアラート、税・法規制の更新を受け取ることができません。

Oracle EBSリリース12.1もしくはそれ以前をまだ利用している調査回答者のうち、明確に最新リリースへのアップグレード予定があるのは、わずか38%です。

Oracle EBS 12.2への移行を計画していますか？

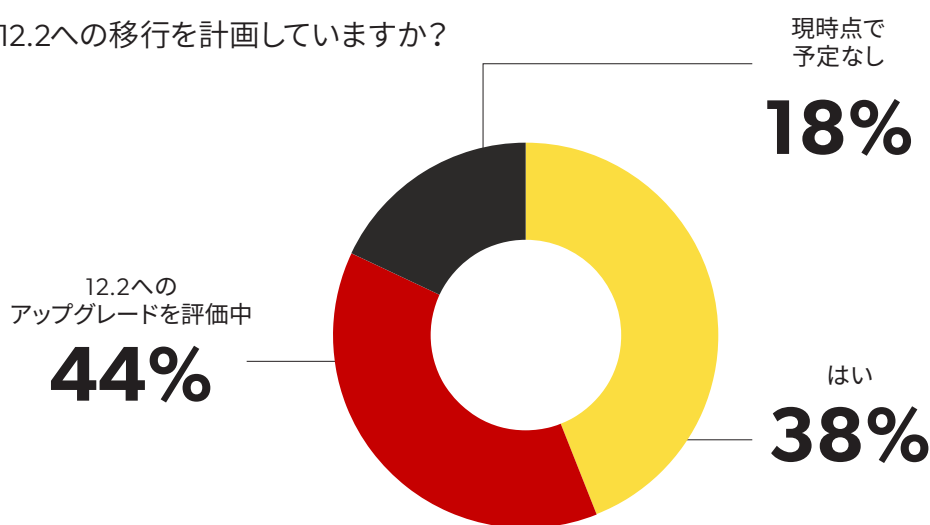


図9

明確な計画を持つ回答者のうち73%がアップグレードする主な理由は、機能やセキュリティ関連の修正プログラム、税・法規制に関する更新など、保守とサポートに関連したものでした。12.2にアップグレードする理由として新機能や機能拡張を挙げたのは、リリースから数年経過しているにもかかわらず、わずか27%でした。

12.2にアップグレードする主な理由は何ですか？

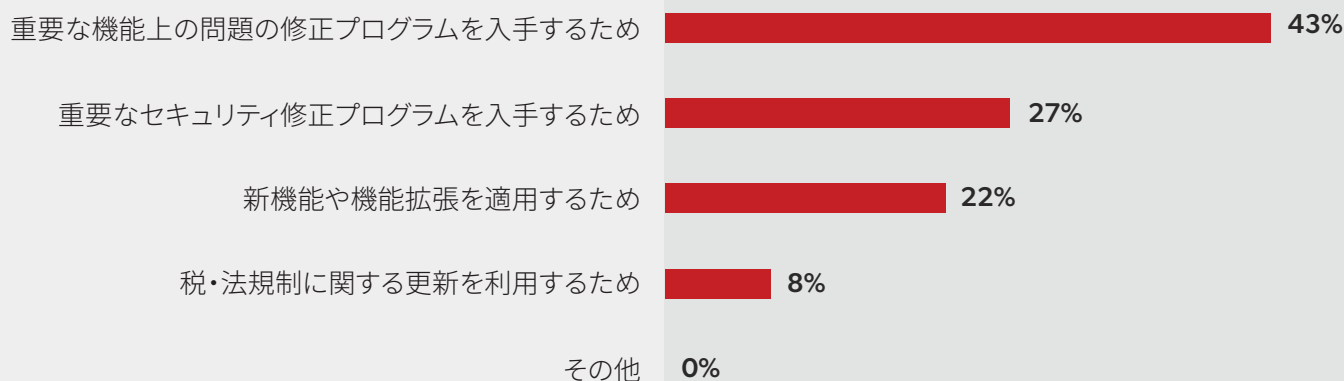


図10

EBS 12.2へアップグレードを迫られることを回避

"R12へのアップグレードには、アップグレードに多大な社内リソースを割り当てる一時コストも含め、大幅なコストがかかりました。EBSを第三者保守サポートに移行するという決定により、将来無理にアップグレードする必要がなくなりました。"⁶

— Lifeway社、
金融アプリケーションマネージャー

EBS 12.1をアップグレードする予定がないという回答者のうち18%は、第三者保守サポートに移行する予定です。46%は、IT人材とコストをつぎこんでEBS環境をセルフサポートすることを計画しており、36%はサポート終了後のOracle EBS 12.1アプリケーションのサポートについて未定です。企業内では、Oracle EBSロードマップの今後の計画を詳しく評価し始めるまで、デフォルトの選択肢として「セルフサポート」が選ばれる傾向にあります。しかし、予算と人材を新たなビジネス優先事項に投入できるよう、次第に第三者保守サポートやOracle EBS向けのAMSを考慮するようになるかもしれません。

2021年12月にPremier Supportが終了した後、EBS 12.1をどのようにサポートする予定ですか？



図11

現在、Oracle EBS 12.1を利用する顧客の多く（73%）が、継続的な日常業務を処理するため、Oracle EBS ERPの全部または一部をアプリケーションマネジメントサービスプロバイダーにアウトソーシングしています。

現在、Oracle EBS ERP環境の一部をTier 2のアプリケーションマネジメントサービス（AMS）プロバイダーにアウトソーシングしていますか？



図12

Oracle E-Business Suite 12.2を利用する回答者の大部分は、主に保守とセキュリティ上の理由から、更新を最新の状態に維持しています。しかし、強力な新しいイノベーションが継続的に得られていると感じているのは、半数未満です（47%）。

Oracle E-Business Suite 12.2を利用している顧客は、Release Update Packの形でベンダーから毎年更新を受け取っており、フルサポートを維持するためにはそれが必須となっています。しかし、更新の頻度や、更新に伴う回帰テストと検証の必要性を考慮して、この調査では、顧客が12.2の更新プログラムを適用する頻度と理由、また更新にどの程度のリソースが必要になるかについて詳しく調べました。

67%の回答者は、すべての更新を適用して最新の状態を維持しており、更新サイクルをサポートするために継続的な人材とプロセスが必要であると回答しました。

Release Update Packを適用する頻度はどれくらいですか？

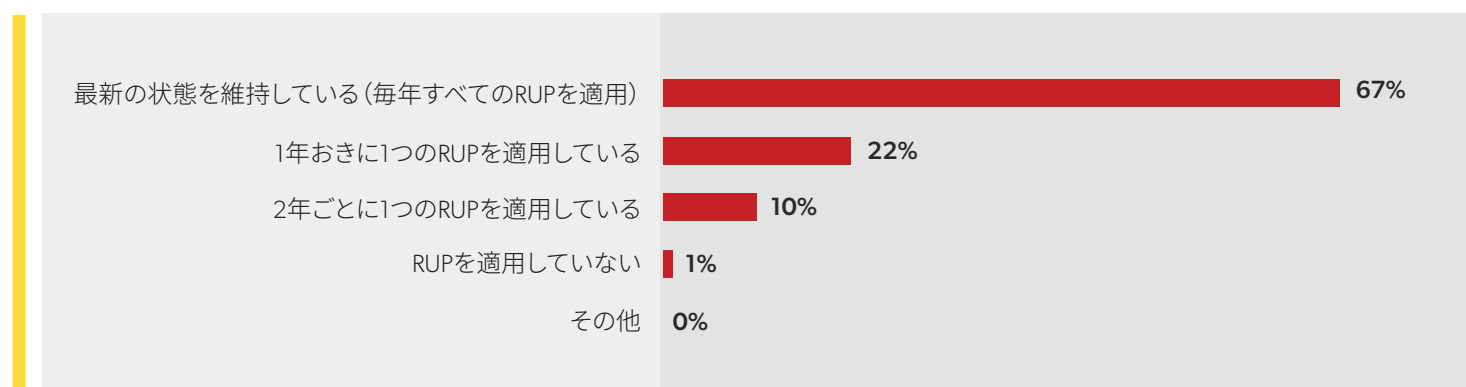


図13

12.2の更新プログラムを適用する主な理由としては、セキュリティや機能に関する修正プログラムを適用することや、今後の修正プログラムを適用する難しさを軽減することなどが挙げられています。Release Update Packを適用する理由に新機能や機能拡張を挙げたのは、回答者の40%未満でした。同じように、強力な新しいイノベーションを継続的に得ていると回答したのは、47%でした。

Release Update Packを適用する理由は何ですか？

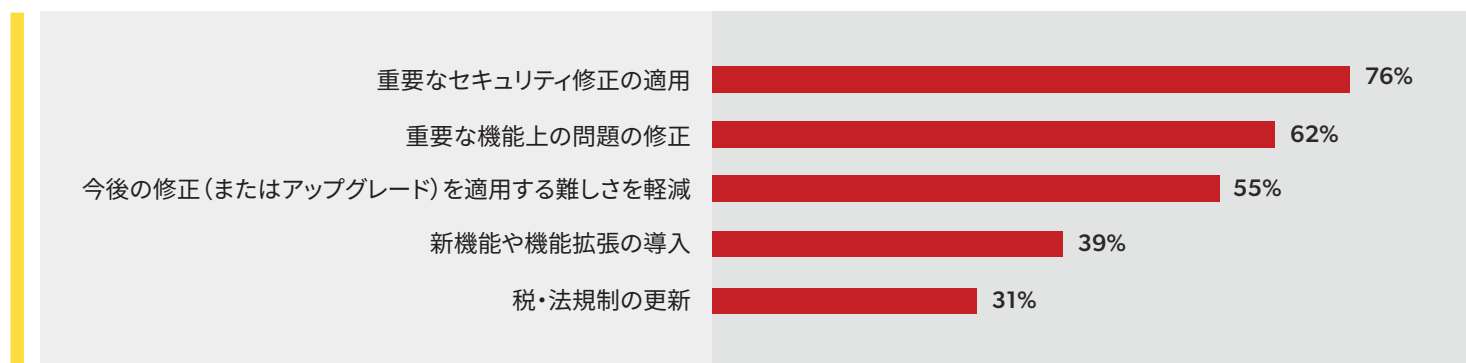
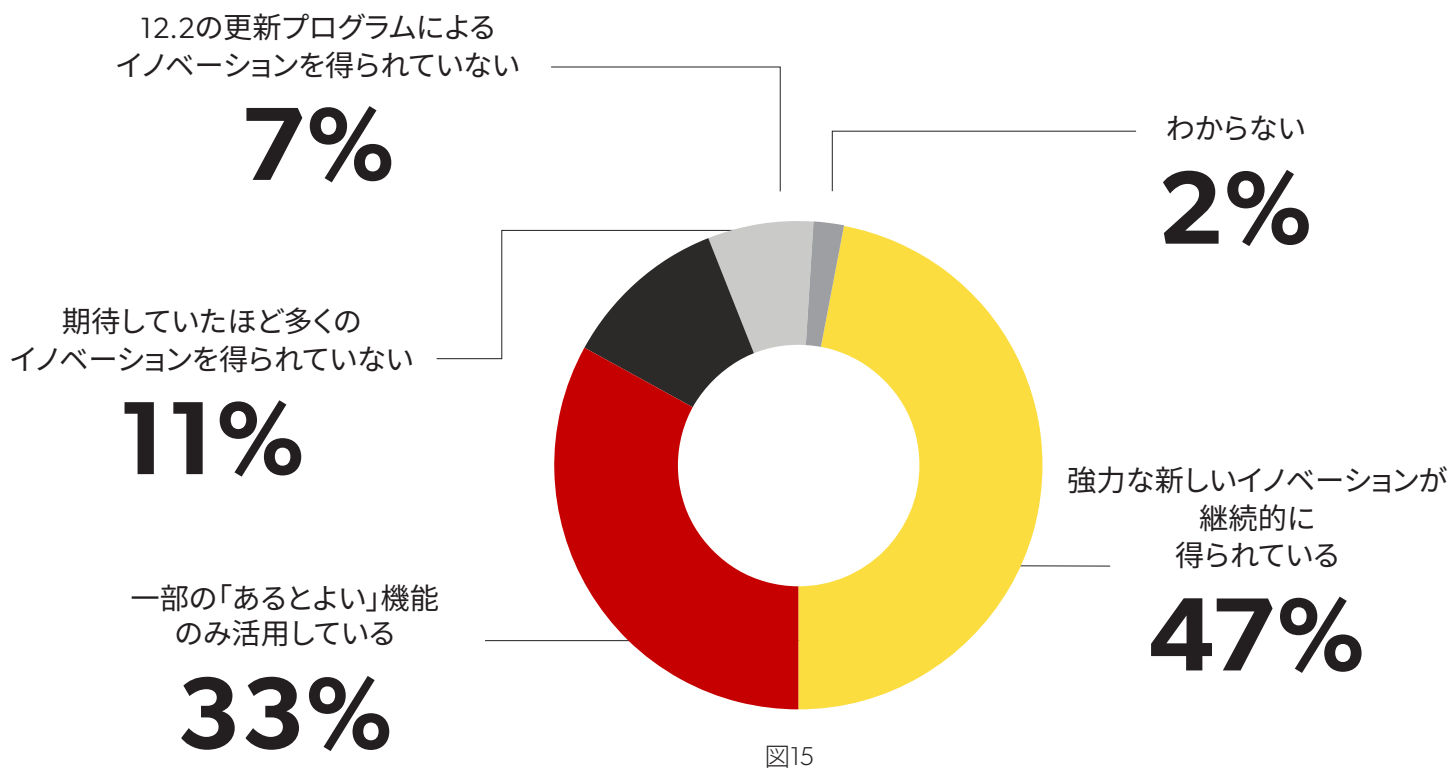


図14

12.2を利用する回答者の大半が定期的に更新を適用している一方、それによって新しい強力なイノベーションが得られていると答えたのは半数未満でした。

Oracle EBS 12.2の更新プログラムから、有意義なイノベーションをどの程度得られていますか？



87%のライセンシーが、Oracle EBSソフトウェアにクラウドホスティングプラットフォームをすでに利用しているか、移行中もしくは評価中です。また、何らかのSaaSを選択している回答者の66%は、Oracle以外の最善のソリューションを利用しています。

Oracle ERPのクラウドコンピューティング化は引き続き高まっており、回答者の87%が、Oracle EBS ERPの一部またはすべてにクラウドホスティングプラットフォーム (IaaS) を利用しているか、積極的に移行中もしくは評価中です。

Oracle ERPの一部またはすべてをクラウドIaaSに移行する予定ですか？

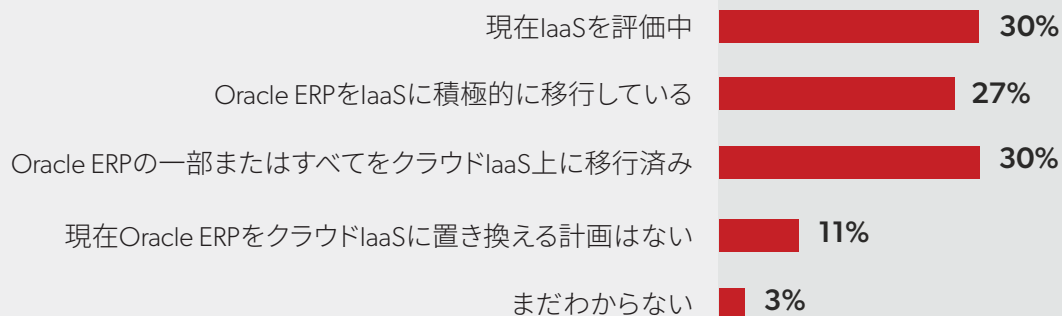


図16

EBSシステムをクラウド環境に移行するなら、データセンターサーバーの更新に多大な設備投資をする必要がなくなり、運用コストを削減し、ユーザーパフォーマンスを向上できます。実際、回答者の30%が、Oracle EBSシステムをクラウドホスティングプロバイダーにすでに移行しています。既存のEBSソフトウェアをクラウド環境にリフト&シフトすることにより、クラウドに関連した前述のメリットが得られるだけでなく、ハードウェアインフラストラクチャの老朽化に伴う課題に煩わされることなく、実績ある現行ソフトウェアリリースの寿命をさらに何年も延長することが可能になります。

Oracle ERPの一部またはすべてをクラウドSaaSアプリケーションに置き換える予定ですか？

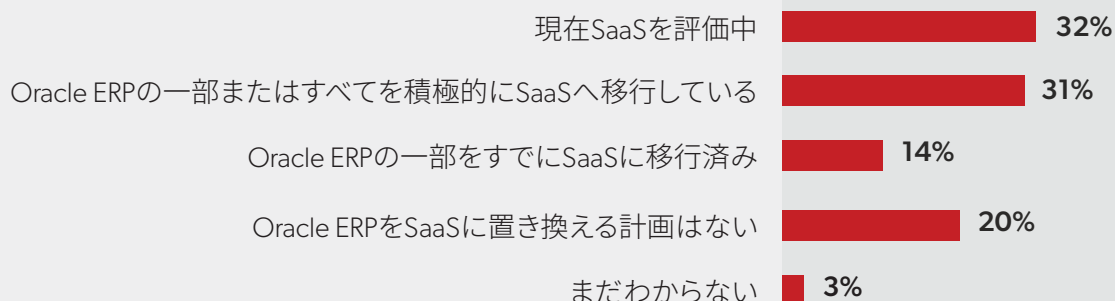


図17

とはいえ、Oracle ERPの一部をSaaSに置き換えたり、積極的に移行中もしくは評価中であると答えた回答者のうち70%近くは、Oracle SaaSの他に、Oracle以外のSaaSも選択しており、単一ベンダーのアプローチよりも最善のアプローチを採用する傾向にあります。

Oracle ERPのSaaSへの置き換えについて、貴社ではどんな計画がありますか？

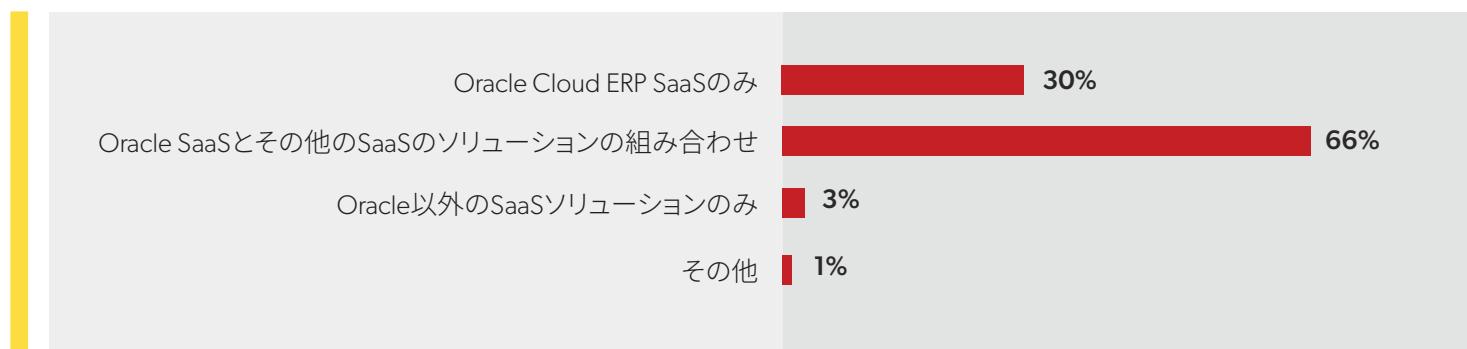
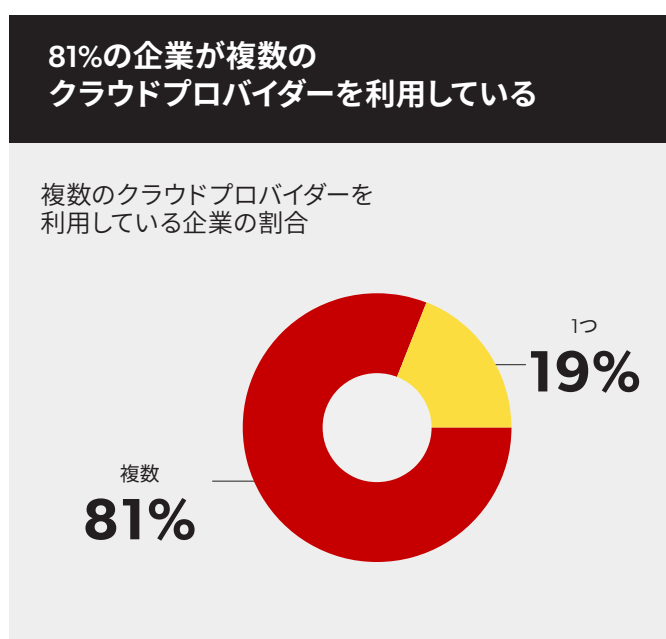


図18

全体として、Oracle EBS ERPとクラウドコンピューティングの傾向は、Oracle EBS ERPをSaaSに「完全に置き換える」回答者（14%）に比べ、既存のEBSアプリケーションをIaaSクラウドに「リフト&シフト」する回答者のほうが2倍も多く（30%）なっています。

EBSとクラウドに関するこの結果は、Oracle E-Business Suiteの顧客が、ビジネスニーズに対応するために複数ベンダーの様々なソリューションが必要となる場合、ERPをSaaSに置き換える方法よりも、IaaSクラウドを利用して既存環境の寿命を延ばす方法を求めていることを示しています。



2020年のGartner社調査によると⁷、回答者は平均2〜3種類のパブリッククラウドプロバイダーと2種類のクラウドを業務に利用しています。

今後のOracle EBSロードマップに向けた 5つの提案

01

現在の年間保守費用の価値を把握する

使用しているOracle EBSリリースのソフトウェアベンダーによるフルサポートが終了している、または間もなく終了する場合は、保守サポートの年間料金を払う価値があるかどうか検討してください。継続的に得られるサポートが少なくなる一方で、高い費用を払い続けることになる可能性があります。

02

財務と管理上のメリットから第三者保守サポートを利用する

使用しているOracle EBSのリリースに関わらず、第三者保守サポートを活用するなら、保守サポート費用を最大90%節約でき、アップグレード、更新の適用、任意のクラウドへの移行を実施すべきか、いつ実施するかを自ら決定できるようになります。

03

ベンダーではなくビジネスにとって有用なITロードマップを策定する

Oracle EBSロードマップでソフトウェアベンダーが次に提供する予定のものを評価する際には、それらの更新がコスト削減や、収益と競争優位性の向上に本当に役立つか、それとも単に名目上のサポートを継続するために保守費用を支払うことになるか、注意深く検討してください。

04

AMSを活用してITの合理化と重要事項への注力を促進する

Oracle EBS向けのアプリケーションマネジメントサービス (AMS) と第三者保守サポートを組み合わせることで、継続的なERP日常業務からIT部門を解放できるという大きな変化がもたらされます。 IT部門は、ビジネスに最大のインパクトをもたらす戦略的な優先事項に注力できるようになります。

05

ERPにIaaSクラウドを利用することで、即座に価値を得て、 リスクを最小限に抑える

Oracle EBSをクラウドに移行することを検討する際、必ずしもERPベンダーがクラウドベンダーとなる必要はないことを覚えておきましょう。 他にも選択肢があるのです。Oracle EBS ERPをIaaSクラウドに「リフト&シフト」するなら、確かなコスト削減と効率化を即座に実現でき、今後、有意義なビジネス価値がある場合にSaaSを使用する選択肢も確保できます。

参考文献

¹ Gartner: 「IT Key Metrics Data 2019: Executive Summary」 、2018年

² <https://www.oracle.com/us/assets/lifetime-support-applications-069216.pdf>
<http://www.oracle.com/us/support/library/057419.pdf>

³ Gartner Predicts 2020: 「Negotiate Software and Cloud Contracts to Manage Marketplace Growth and Reduce Legacy Costs」 、2019年12月18日発表 - ID G00463732

⁴ Tech Mahindra、 「Critical Capabilities for Oracle Application Services, Worldwide」 、2018年2月28日
<https://www.gartner.com/en/documents/3863664/critical-capabilities-for-oracle-application-services-wo0>

⁵ <https://www.riministreet.com/clients/atkins/>

⁶ <https://www.riministreet.com/clients/lifeway-christian-resources/>

⁷ Gartner: 「IT Leaders' Strategy Deck: Multicloud and Hybrid Cloud」 、2020年1月15日



Rimini Street®

日本リミニストリート株式会社

〒163-1030 東京都新宿区西新宿3-7-1
新宿パークタワー N30階
電話 03 5326 3461
Fax 03 5326 3001

contactjp@riministreet.com www.riministreet.com/jp

リミニストリート (Nasdaq: RMNI) は、エンタープライズソフトウェア製品とサービスのグローバルプロバイダーであり、OracleおよびSAPのソフトウェア製品に対する第三者保守サポートにおいて業界をリードしており、またSalesforce®のパートナー企業でもあります。*リミニストリートは、エンタープライズソフトウェアライセンスにおいて、大幅にコストを削減し、イノベーションのために資源を自由にし、より良好な業績結果を達成することが可能となる、プレミアムで、非常に応答性が高い、統合型のアプリケーション管理およびサポートサービスを提供しています。業界を問わず、フォーチュン500のグローバル企業、中堅企業、公共セクター組織等を含む顧客が、信頼できるエンタープライズソフトウェア製品とサービスのプロバイダーとしてリミニストリートにサポートを委託しています。

© 2020 Rimini Street, Inc. All rights reserved. Rimini Street は、米国およびその他の国におけるリミニストリートの登録商標です。Rimini Street, Rimini Street ロゴ、およびその組み合わせ、その他TMの付いたマークは、リミニストリートの商標です。その他のすべての商標は、それぞれの所有者の財産権を構成するものであり、別段の記載がない限り、リミニストリートは、これらの商標保有者またはここに記載されているその他の企業との提携や協力関係にあるものでも、またそれらを支持しているものでもありません。この文書はRimini Street, Inc (「リミニストリート」) により作成されたもので、Oracle Corporation、SAP SE、または他のいかなる団体によっても後援、承認、または関係付けられたものではありません。別途、書面による明示的な記載がない限り、リミニストリートは記載されている情報についていかなる責任も負わず、商品性または特定目的への適合性の黙示的保証を含みますが、それに限定されないすべての明示的、黙示的、または制定法上の保証を行いません。いかなる場合でもリミニストリートは、この情報の使用または使用が不可能な事態によって生じる直接的、間接的、結果的、懲罰的、特別的、または付随的損害のいずれに関する責任を負いかねます。リミニストリートは、第三者により提供された情報の正確性または完全性について一切の表明または保証を行わず、当該情報、サービス、または製品について随時変更する権利を有します。LR-69499 | A4-JA-102820